

## contents

スタディシリーズ講演ビデオ集完成！ 詳しくは、2ページをご覧ください。

巻頭 新しい酒は新しい皮袋に入れよう	1	実践報告 インターネット素材を活かした	
スタディシリーズビデオ完成	2	マルチメディアコースウェアの開発と授業実践	
講演会・研修会のお知らせ	2	- 方言と共通語「全国の方言を聞いてみよう」 -	4
桜南小学校・並木小学校花室川プロジェクト		スタディノートメーリングリストから	
フランスの先生方もびっくりされていました	3	- 国語での実践をめぐって -	7
桜南小・並木小の先生方から	3	掲載されました！	8

## 新しい酒は新しい皮袋に入れよう

- 新学習指導要領に向けて、どのようにコンピュータを導入して利用していくか (1) -

21世紀教育研究所

中山 和彦

2002年から用いられる新しい学習指導要領が公表された。この学習指導要領のもとになった教育課程審議会の答申の、小・中学校にかかわる中心点を、私なりにまとめてみると、次のようになる。

- 「個の違いを認める教育」
- 「自ら考え、学び、課題を解決する能力の育成」
- 「じっくりとゆとりのある学習」
- 「基礎・基本の指導の徹底（完全修得）」
- 「情報リテラシーの育成」
- 「総合的学習の時間の創設」
- 「特色ある学校づくり」

ここに示されたことは、各学校で実現しなければならないことである。ところが、内容を検討すると、実現をすることは大変であり、ほとんど不可能なことが求められているような感じさえる。

しかし、今、学校で預かって教育をしている子どもは、21世紀の社会で生き抜いていかねばならないのである。そのためには、これまでの学校教育の在り方を踏襲していたのでは、21世紀に生きる力をはぐくむことは不可能としか言えない。答申には、「一人一人のよさや可能性を伸ばし、個性を生かす教育の一層の充実を図ることも重要である。そのために、各学校段階を通じて、幼児児童生徒の興味・関心を生かし、主体的な学習の充実を図るとともに、個に応じた指導の一層の工夫改善を図ることが大切である」と示されている。そして、これまでの「学力を

単に知識の量と捉える学力観を転換」し、「教える内容を最小限の基礎的・基本的内容に厳選する」かわりに、「厳選された内容については、繰り返し学習させるなどして、確実に修得させなければならない」と、要求されている。

ここに示された、ゆとりのある活動を展開して、自ら学び、自ら考え、基礎・基本の確実な定着を図るために、教師には、次のようなことが求められている。  
・「指導に当たっては教師は子どもたちとともに学び考え、子どもたちの問題解決を助けていくという姿勢が大切である」

・「児童生徒の発達段階を考慮し、一人一人の興味関心を生かした指導や、学習内容の理解や習熟の程度に応じ、弾力的に学習集団を編成したり、学級編成を弾力的に行うなど、個に応じた指導の工夫改善を一層進める必要がある」

・「もっぱら覚えることに追われていると指摘されるような状況をなくして、子どもたちがゆとりの中で繰り返し学習したり、作業的・体験的な活動、問題解決的な学習や自分の興味・関心等に応じた学習にじっくり創意工夫しながら取り組めるようにする」

教師が教えるものを子どもが覚えるのではなく、子どもが中心となって自ら学習していくのを教師は支援する立場にたつのだということは、頭では理解できる。しかし、現在の授業でも、授業についてこれない子どものいる反面、授業の内容・レベルに退

屈している力の余っている子どももいる。新学習指導要領で求められている、個に応じた指導ということは、退屈しきっている子どもには興味とやる気を持たせて能力をいっぱい伸ばし活動させることである。また、授業についてこられずに切り捨てられているような子どもには、その子どもなりにゆとりをもった活動を行わせて、基礎・基本を完全に修得させるようにすることである。

このことを現在の一斉授業の方式で実現することが求められたら、全ての先生は頭を振って「そんなことは、できっこありません」と答えられるであろう。

新しい学習指導要領で求められていることは、現在の学校の状況下では、実現することは不可能であると言ってよい。「新しい酒は新しい革袋に入れなければならない」という諺があるが、新しい教育思想を導入して、学校の教育を改革していくためには、新しい革袋が用意されなければならない。もし、それが用意できないならば、新しい教育思想は何の意味も持たないだけでなく、これまでの教育土壌の上に異質のものがまき散らされることになり、教育現場に大変な事態を起こすことになるのではないかと心配している。

新しい革袋に相当する、何らかの新しい考え方、具体的な方法、そのために必要な施設・設備の導入が緊急になされない限り、新しい学習指導要領で示された理想は、絵に描いた餅より意味がないであろう。

子どもたちが伸び伸びと過ごせる楽しい場として、特色のある学校をつくりあげて、各児童生徒が自分の興味・関心のあることにじっくりと取り組むゆとりがもて、基礎・基本を自ら完全に修得し、情報リテラシーを身につけられる学校がこれから求められている。そのような学校、子どもの活動を中心にした学習を実現することは、至難の業かもしれない。しかし、それが求められているのであり、日本や子どもたちの将来のためには、どうしても実現しなければならないのである。

私は、そのためには先生の斯道を、子どもの学習を捕縛する道具としてコンピュータを上手に利用していく以外に可能性はないのではないかと考えている。どのようにコンピュータを導入して利用していくかについて、これから何回かにわたってお知らせしたい。

## スタディシリーズ 講演ビデオ集 完成!

21世紀教育研究所では、スタディシリーズ講演ビデオ集「これからの教育とコンピュータ」(全4巻)を制作いたしました。

- 第一巻 中山和彦「これからの教育のあり方」
- 第二巻 中山和彦「コンピュータは役に立つのか」
- 第三巻 東原義訓「授業に活かすマルチメディア」
- 第四巻 余田義彦「授業に活かすネットワーク」

スタディシリーズの根幹にある考え方、新指導要領とこれからの教育とスタディシリーズのかかわり、マルチメディアやネットワークを教育で活用するときの方策や実践例などを中山先生、東原先生、余田先生にお話しいただいたものです。スタディ初心者からベテランの先生まで、参考にしていただくことができる内容になりました。学校や地域での研修会などでお役立て下さい。

価格、お申し込み方法は次の通りです。価格は、いずれも4巻セット、送料込みです。各巻のばら売りはいたしません。

### ECO News 会員特別価格:

1セット 12,000円 (+消費税600円)

特別価格の対象となるのは、ECO News 会員の学校関係者(個人または所属する学校等)の方です。

学校関係者価格(教員、学校等):

1セット 15,000円 (+消費税750円)

一般価格(学校関係者外):

1セット 30,000円 (+消費税1500円)

・お申し込み方法:

下記郵便振替口座に代金と消費税を合算した金額をご送金下さい。その際、必ず通信欄に「これからの教育とコンピュータ××セット申し込み」とご記入下さい。

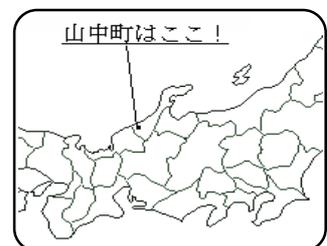
口座番号 00160-9-727214

口座名 ECO News

なお、請求書等が必要な方は、21世紀教育研究所までご連絡下さい。

### ・@講演会・研修会のお知らせ

- 名称 「コンピュータ教育講演会と活用研修会」
- 日時 平成10年12月25日(金) 12:30 ~ 16:30
- 主催 石川県コンピュータ教育利用研究会 / 山中町立山中中学校
- 会場 山中町立山中中学校(石川県江沼郡山中町)
- 講演 中山和彦 演題「新学習指導要領とこれからの教育とコンピュータ」
- 問い合わせ 加賀市立山代中学校 07617-6-0044(担当 片野先生)



## 桜南小学校・並木小学校 花室川プロジェクト

## ・@フランスの先生方も びっくりされていました！

中山和彦

『並木小学校さん、花室川の水質調査をやった人  
を呼んでくれませんか』と、桜南小学校の6年生の  
児童がコンピュータを前にして言っています。コン  
ピュータの画面には並木小学校の教室が写っています。  
もちろん、並木小学校側のコンピュータには、桜南  
小学校のコンピュータの前から呼びかけている子  
どもの姿が写っている筈です。

この隣どうしの2つの小学校は、分担して、学校区  
域内を流れている花室川の調査をしているのです。  
2つの学校は、ケーブルテレビの光ファイバーを経  
由したインターネットでつながっております。その  
スピードは1.5Mbpsで、動画や音声を自由に送るこ  
とができます。

呼びかけを聞いた並木小学校の子どもは、『それは、  
誰々君のグループだ。』と言って、その子どもたちを  
呼びに行き、やがて、その子どもがコンピュータの  
前に来て応答をしてきました。そして、『この前に調  
べた結果はどうだった。』と、お互いに自分たちの調  
査結果の話し合いを始めました。これまでに、何回  
かやりとりをしているので、お互いは顔なじみで、  
学校が離れていても仲間なのです。

この状況を見ていた、日本の学校でのコンピュータ  
やネットワークの利用状況の調査に来ていた、フラン  
スの文部省や通産省の課長たちはびっくりしました。  
『日本の小学校では、こんな形でインターネットを、  
子どもたちが道具として自由に使っている。』  
と...

この日、つくば市の並木小学校と桜南小学校とを  
訪問した、フランス政府教育調査団の人たちは、『こ  
の2つの小学校を視てびっくりした。日本に、児童  
たちがコンピュータやネットを道具として使いこな  
している小学校があることや、子どもたちが自由に  
使いこなせるソフトが開発され、稼働しているとい  
う報告を、もし誰かから聞いただけでは、信じられ  
なかったであろう。』と感想を述べていました。

とくに強い印象をうけたのは、学校内のすべての  
場所に校内ネットワークが設置されており、その校  
内ネットワークは、ケーブルと接続金具だけを購入  
し、先生たちが自分たちで設置したこと。コン  
ピュータ室、メディア教室以外に、大学や研究所で  
廃棄処分になった中古のコンピュータをもらい受け  
各教室に接続されていること。それが、子どもた  
ちや先生によって、授業時間中に、それ以外の時間  
に、自由に、有効に使いこなされていること。そ  
のためのソフトは、子どもたちが使いやすいように  
研究の結果、開発されたものであるということ。

そして、子どもたちがコンピュータを自由に使え  
るように、管理・運営の面でも考えられており、  
子どもたちが生き活きとして使っているというこ  
とでした。

『フランスと日本の教育は、非常によく似ているの  
で、このような形の学習をフランスでも実施させたい。  
そのためには、ソフトが必要なので、ぜひフラン  
ス語版のものを大至急開発して欲しい。』という要  
望が後に残されました。

### 桜南小・並木小の先生から

～スタディノートメーリングリストより転載～

Date: Sat, 28 Nov 1998 12:44:35 +0900

Subject: 研究発表会が無事に終わりました。

つくば市立桜南小学校 森田 充

本校の研究発表会が、11月27日、400名の参  
会者を集め、終わりました。

本校では、総合的な学習の「情報教育」と「環境教  
育」を行い、2つをリンクさせながら、伸ばしてい  
こうという試みでしたが、ねらいに少しずつ近づいたよ  
うに感じています。自己満足かもしれませんが、参観  
の先生方も、スタディノートのすばらしさに感心して  
いました。

特に、並木小学校の掲示板の共有化により、花室川  
について、まとめたことが、並木小学校でもみられ、  
それについて質問や意見が来る。それを見て、さらに調  
べて答えたり、まとめをグレードアップしたり、とに  
かく子どもの追究が深くなる。(学校以外の児童と交  
流しながら、学習するのは、楽しいのはもちろん、よ  
りいいものをつくりたいという意地もあるし、とにか  
く学習がおもしろい。)子どものもまとめの変遷を見  
ると、変わってきた経緯がよくわかります。それに、  
テレビ会議では、同じテーマで追究し、掲示板で名前も  
知っているの、並木小の子を、より身近に感じ、討  
論できる。本当に、よかったですと思います。

今後、実際の授業者の感想や、意見をメーリングリス  
トに流したいと思っておりますので、楽しみにしてい  
てください。また、研究紀要をホームページに公開しま  
した。

Date: Tue, 01 Dec 1998 21:10:21 +0900

Subject: Re: 研究発表会が無事に終わりました。

並木小学校 毛利 靖

森田先生、並木小の毛利です  
研究会、おつかれさまでした。

6年生のフォーラムは、とても素晴らしかったで  
す。児童の学習に、保護者や専門家などが協力して  
学習していくスタイルは、これからますます多  
くなっていくのでしょうか。勉強になりました。

わいわい広場の児童の作品も中学生並の出来で  
したね。どうしたらあそこまで出来るのでしょうか。  
びっくりしました。(次ページへ続く)

Date: Wed, 2 Dec 1998 03:40:04 +0900  
 Subject: 毛利先生ありがとうございました。  
 桜南小学校 森田 充

桜南小学校の森田です。  
 こちらこそありがとうございました。並木の子の発表のすばらしさには、本当に驚きました。

わたしは直接授業を行ったわけではありませんが、日頃から見ている思ったことは、手前味噌ですが、6年担任スタッフに情熱が満ちあふれていたということです。当たり前かもしれませんが、先生自ら花室川の事前調査を行ったり、急に調べたくなった子ども達を休日に川に連れていったり、がんばっていました。

それから、やはり、「支援」の大切さでしょうか。ここまではできるようにさせたいという点が明確に

してあったこと、そうするために指導しなければならないところと、子どもの主体性を重んじ、とにかくさせてみるといったことがなかなか絶妙だったと思います。

子ども達のまとめが、レポート的によくまとめられているのは、6年スタッフの努力以外にないと思います。それに応えて、ねばり強くがんばった6年生もすごかったかな。

そうそう、子ども達は、はじめて並木の子どもの花室川の研究レポートをみて自分たちもこれ以上にしたいと思ったことは大きいですね。他校と交流しながら、学習を進めるということは、お互い切磋琢磨して伸びていくということにつながるんですね。そういう意味でも、並木小の子ども達に感謝しています。

6年生校外学習で忙しいので、これが終わりましたら、直接投稿させます。

## 実践 報告

### インターネットの素材を活かした マルチメディア・コースウェアの開発と授業実践

## 方言と共通語「全国の方言を聞いてみよう」

愛知県知多市立中部中学校 橋本 直子

### 1 はじめに

長年(?)中学校に勤務している私が、小学4年生の教材を作ることになったきっかけは、小学校教諭の免許取得のための教育実習での研究授業である。教科は国語を選び、時期と内容を考慮して「方言と共通語」という単元で授業をすることにした。東北の岩手県出身の私にとって、「方言」は、とても興味のもてる題材でもあった。

2週間という短い実習の中で、ほんの数回の授業実践しかできないが、子どもたちの心に残る良い授業をしたいという思いがあった。授業を通して、子どもたちとの本当の出会いが生まれるような実践にしたいと考え、結局、自分でマルチメディアコースウェアを作成することになってしまった。

### 2 インターネットの利用

授業の構成を考えていくと、「方言」の学習をするためには、実際に生きた言語素材が不可欠であることに気づいた。子どもたちは「方言」というと、どうしても、民話や昔話のイメージが強い。現在でも、実際に日本全国で日常的にいろいろな方言が生きて使われているという事実が、子どもたちの間には理解されていない。そこで、インターネットの方言に関するホームページを検索し、生きた言語素材を探すことにした。探してみると、方言に関するホームページが全国で本当にたくさん公開されていることに大変驚かされた。小中学校、大学生から一般の方々まで、実に興味深い提示のしかたで、地方の文化と合わせ、方言が楽しく学べるように情報を発信している。こんなすばらしい生の教材を、授業に活かさないのは、本当にもったいないと思った。そこで、各地のホームページから集めた生きた方言素材を使ったマルチメディアコースウェアを作成して授業を実践することにした。

### 3 マルチメディアコースウェア作成の利点

生きた方言素材を集めて授業に活かすために、マルチメディアコースウェアを作成することには、次のような利点があげられる。

情報を必要なものに絞ることができる

実際の授業は、普通教室で液晶プロジェクターでコンピュータ画面を投影し、教師が操作して音声を表示するという方法で行うことにした。ところがホームページをそのまま提示したのでは、情報が多すぎて、限られた授業時間内に、教師の意図する音声だけを効率的に提示することはできない。ホームページには作成者の意図があり、情報をもらう側の意図はもちろん存在しない。特に、たくさんの情報に慣れていない児童にとって、あふれるような情報のつまっているホームページをそのまま一度に提示することは、学習効果をあげるところか、興味が拡散したり、うんざりして、逆効果になることも心配される。マルチメディアコースウェアは、ホームページから教師が児童に必要と思われる情報(音声)だけをあらかじめ取り出し、提示することができる。

ホームページによって異なる画面を統一できる

ホームページの画面は当然ながら作成者ごとに違う。これらをひとつひとつ見ていたのでは、学習者である児童はとまどってしまう。コースウェアでは、画面の構成や操作を統一することができる。

効果的な音声や文字の提示が可能

効果的に学習をすすめるには目的にあわせて音声や文字を提示する必要がある。しかし、ホームページをそのまま提示すると、音声と一緒に初めから文字が画面に出てしまうなど、児童に考えさせたりしたい時には不都合なことがある。コースウェアでは、ボタン機能によって、音声を何度も聞かせたり、方言の文字を提示してから、共通語の文字を提示するといったよう

に、教師や学習者の意図に合わせて音声や文字を提示することができる。

時間の無駄を省き、効率よく学習できる

ホームページを検索したり、あちこち見ていたりすると、それだけで時間がかかってしまう。ところが、授業では限られた時間の中で効率よく学習を進めるために、情報や学習内容を精選しなければならない。必要な情報をコースウェアに組み込んでおけば、効率よく学習を進めることが可能である。

以上のような4つの理由から、ホームページから音声や画像などの情報を集めたマルチメディアコースウェアを作成することにした。

#### 4 教材の内容

(1) 開発したコースウェア

コース名：「日本各地の方言を聞いてみよう」

対象学年：小学4年

教科：国語科

単元：方言と共通語

特徴：普通教室の一斉授業において、限られた時間で、いくつかの方言を実際に児童に聞かせるためのコースである。素材となる方言の音声や画像の収集にはインターネットを活用した。

クラスの児童全員に対して、一台のコンピュータを使い、画面を液晶プロジェクターを使って提示する。

(2) コース開発の目的

民話や昔話などの方言だけではなく、日本全国で生き生きと話されている方言を聞き、その意味を共通語で確認することにより、方言に関する児童の興味・関心を喚起させ、方言のよさを感じ取らせることを目的とする。

(3) コース作成の基本的な考え

素材はインターネットを活用

生きた教材の情報源としてインターネットを活用した。できるだけ小学生や中学生の吹き込みによる音声を使用し、方言が身近なものであると感じ取られるように工夫した。また、音声のみならず、写真や背景、ボタンなどの素材もインターネットをフルに活用した。特にクリックボタンは信州大学のマルチメディア教材開発の公開講座で使用されたものを使わせていただいた。もちろん音声吹き込みの小中学校には、使用許可をとり、どのような目的でどのように利用するかを説明した。会津若松の城西小学校の先生からは、「吹き込みの音声を、C A I のコースの中で利用してもらえることは、とても嬉しい」というEメールをいただいた。コースの中でも音声や画像にはインターネットのアドレスを明記した。

メニュー形式による地方選択

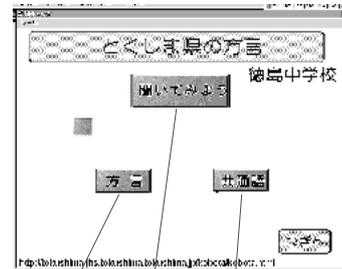
児童が聞いてみたい方言を自由に聞けるように、メニュー形式にしてコースを分岐させた。メニューにはその地方の風景の写真を使用し、その地方の人々の暮らしを思い描くことができるように工夫した。写真もインターネットからダウンロードしたものである。



インターネットからダウンロードした写真を使ったメニュー

ボタン機能を生かした学習

「方言を聞くこと」と、「方言の部分の文字の提示」、「共通語の文字の提示」の3つの学習が、学習者の反応や状況によって臨機応変に使い分けられるように、3つのボタンを用意し、どの順番でも提示できるようにした。音声はクリック再生によって何度も繰り返し聞くことができるようにした。



●◎ボタンによる選択画面

「方言」ボタン 「共通語」ボタン 「聞いてみよう」ボタン



「方言ボタン」を押すと、方言部分が表示される。●

液晶プロジェクターで画面を提示する

教師が画面を液晶プロジェクターで提示し、児童の反応を確かめながら、ボタン操作ができるようにした。

(4) コース作成の手順

インターネットでの素材収集

膨大なホームページの情報の中から、児童にわかりやすく、吹き込みの状態のよい音声素材を選び抜き、自分のコンピュータにダウンロードする。写真、背景、ボタンなどの画像データもダウンロードして、コース作成の準備をする。

基本的な画面作成を決める

最初の1画面を作成するのに充分時間をかけ、「聞いてみよう」、「方言」、「共通語」の3つのボタンのレイアウトなど基本的な構成を決めた。

#### 5 授業の実践

(1) コースの位置づけ

本時の学習は、「方言と共通語」の単元の学習の第1時にあたる導入部分であり、方言について興味関心を抱かせることがねらいである。第2時には調べ学習についての各自の課題を持つこと、第3時から第7時まででは、調べ学習と発表である。

本時の授業の学習過程は以下の通りである。

- 1 青森の民話の方言を聞く。...本時の学習に対する関心を抱かせる。
- 2 「方言のよさについて考えよう」という学習課題をもつ。
- 3 聞いたことのあるいろいろな方言について発表する。
- 4 いろいろな地方の方言を聞いて、印象や感想を話し合う。
- 5 本時の学習をまとめ、次時の学習課題を確認する。学習過程1と4で本コースを使用した。

(2) 実践の様子

知多市の小学校ではまだコンピュータが導入されおらず、コンピュータやインターネットを利用した授業も初めてのことであった。それだけに子どもたちは、インターネットを利用した国語の授業にたいへん

な興味と関心を示した。冒頭の民話も、児童の興味をぐっと引きつける効果があった。

学習過程4で、メニューが提示され、「どの地方に行きますか」と尋ねられると、子どもたちは口々に「秋田!」とか「九州!」とか元気よく希望を述べ、こちらがこまってしまうほどの反応であった。「秋田!」の声が多かったので、秋田県の方言から学習することにした。このようにしてマルチメディアコースウェアを使った授業が勢いよくはじまった。秋田県の双葉小学校、会津若松の城西小学校、徳島中学校のホームページからダウンロードしたものは、身近な年齢の児童生徒による吹き込みだったためか、特に興味を抱かせたようである。方言によっては、音声を何度も聞かないと聞き取れない速さや言葉のものもあるので、クリック再生のボタンは便利であった。また、方言の確認を先にしたり、共通語の確認を先にしたり、臨機応変にボタンを使うことによって、児童の理解や反応に合わせて文字を提示することができてよかった。

方言についての興味・関心を抱かせることをねらいとしたこの短いコースウェアは、実に効果的であったと思う。

### (3) 授業後の児童の感想から

授業終了後、児童に自由に感想を記述してもらった。これらの児童の素直な感想は大切なことを示唆する内容のものもあり、また、どれも私を勇気づけるものであった。

・ すごかったのしかった。ぼくのお父さんもパソコンをもっていて、たぶんインターネットもできると思うから、一度方言をしらべてみたいなあと思いました。(A君)

・ インターネット、コンピュータはとってもべんりで、方言もしらべられて、とってもすごい。国語の授業にもやくにたつななてと思いました。(Hさん)

・ 方言の勉強をしてみても、日本だけでもはつおんがちがったり、その地方のことばとかがおもしろかったです。秋田、会津若松など、いろいろあったけど、インターネット、コンピュータぜんぶとてもたのしかったです。わたしもこんど、方言の勉強で、九州、三重、ぎぶをしらべてみたいと思いました。(Sさん)

・ わたしがいちばん気に入った方言は、「バスケやんべ」でした。それにインターネットをやってくれてどうもありがとう。(Mさん)

・ 方言と共通語をちゃんとくべつするきのうななてはじめてした。方言をはなしているときあまりわからないことばも、共通語のところをクリックしたらよくわかった。(T君)

・ とくしま中学校の「このスイカおっきょいな」というのが楽しかった。(Y君)

・ わたしは方言というのがよくわかりませんでした。でももしかしたらわたしがいつもつかっていることばかもしれないね。インターネットでやるのはわかりやすくてたのしかったです。(Mさん)

・ 方言はとてもおもしろかった。とくに、「バスケやんべ」が一ばん心にのこったような気がする。それからつぎの日に、方言の本をMちゃんといっしょにかりにいて、いっしょによんだらいろいろな方言があって、おもしろかった。(Sさん)

・ インターネットを使った授業なんてやったコトなかったから、すごいなあと思いました。うちはパソコンが一台あるけど、すごい何倍も画面がきれいななあと思いました。<いけん>もつというんなトコの方言もコンピュータにいれてほしいです。(Eさん)

・ やっぱり方言は共通語にはないあたたかさや表げんができるんだと思いました。(Mさん)

・ 日本ではいろいろな方言があるんだなあと思いました。ぼくは愛知県の方言があまりしらないから、もっとしらべようと思った。(T君)

・ ぼくにはわからない言葉ばかりでした。で、答えをみてその言葉の意味がわかりました。どうもありがとうございました。(K君)

・ 方言というのは愛知県とにでると思ったけど、ぜんぜんちがっていてびっくりした。(D君)

・ いろいろな地方の方言がきけてたのしかった。それに方言と共通語のことがよくわかった。(Cさん)

・ インターネットを使ったのがすごかったのしかった。いろいろな方言が聞けておもしろかった。もつとめずらしい方言を聞いてみたいなあ!(Mさん)

・ インターネットの授業はなんか笑いがでてきて、べんきょうじゃないくらいたのしかった。(Sさん)

・ インターネット、コンピュータの授業ははじめてうけました。先生もわかりやすいせつめいをしたり、おもしろかったです。方言っておもしろいね。(Mさん)

・ わたしは初めの方は、すごくドキドキしたけれど、やっているうちに、楽しくなり、おもしろかったです。できたらさいごにインターネットのつづきが聞きたかったです。(Rさん)

・ インターネットをつかったところがとても楽しかった。またやってほしい。(Tさん)

こうした児童の感想をまとめると、つぎのような結論を引き出すことができる。

- 1 生き生きとした音声素材を聞くことによって、方言を楽しく学習することができる。
- 2 インターネットを活用し、画像と音声の効果的に提示することは、児童に大いに興味関心を抱かせる。
- 3 わかりやすい画面提示によって、方言と共通語のことがよく理解できる。
- 4 もっといろいろな方言を調べたいという意欲を引き出すことができる。

## 6 実践の成果および考察(研究会より)

研究授業後に、2時間25分間の充実した研究会がもたれた。授業のねらいや、学習過程、単元構成など幅ひろく方言の学習についての意見交換がなされたが、インターネットを活用した授業であることが、最も話題の中心となった。

授業を参観した先生方の意見をまとめると、次のようになった。

- 1 市販の教材ではなく、教師の自作の教材を提示したことに価値がある。
- 2 実際に生き生きと使われている方言は、インターネットを利用しなければ入手できない。さもなければ実際にそこにでかけて行かなければならない。
- 3 インターネットを効果的に活用して、わかりやすく児童に提示したことで、方言について大いに興味を抱かせた。
- 4 東北地方の方言を話す者にとっては、方言は劣等感と結びついている。しかし、この授業では全国の方言が楽しく面白く学習できるので、子どもたちは偏見を抱くどころか、「おもしろい」といってまねをするなど、楽しんで学習していた。
- 5 児童の反応を確かめながら、クリックをして音声や文字を提示したので授業での教師と児童のやり取りは、一体感があった。
- 6 コンピュータを毛嫌いしていたが、コンピュータを用いた授業がこんなに児童を引き付けることを目の当たりにし、これまでの考えを改めなければなら

らないと感じた。今後はコンピュータやインターネットを活用した用いた授業のよさを見直し、自分も取り組んでみたい。

以上のような感想から、コースウェアは児童の意欲を引き出すのに効果的であったということと、先生方の意識を啓発することにもなったということが、とても嬉しく思った。

ただし、「方言は言葉や語彙だけではそのよさがわからない。方言は会話の中でこそ生きてくるものである。」という指摘があった。コースの中に対話形式の音声素材を入れることができれば、もっと効果的であったであろうし、コースの中の素材を取り上げて、授業の中で対話形式で活用するといったこともできると思った。

玉川大学文学部の中山正彦先生の指導講評では、コンピュータやインターネットなど、最先端の技術や機器を多様に使いこなして実践した姿勢を高く評価し、その姿勢を互いに学び合いたいものだとおっしゃってくださいました。方言の学習を通して、郷土の言葉のよさを学ぶことは、郷土の文化を学ぶことであり、それを学ぶものにとっての誇りにまで高めていきたい。それが子どもの力になるのではないかとおっしゃっていただいた。貴重な助言をいただき、「方言と共通語」の学習の奥の深さと意義の大きさを感じた。

## 7 おわりに

「方言と共通語」の授業実践を通して、私自身初めて方言について深く学ぶことができた。また、児童との出会い、先生方との出会い、貴重なアドバイスなど、私にとってすばらしいものばかりを得たような気がする。そして、ウィンドウズ版のスタディコースウェアを作ることができたことも最も大きな収穫であった。

コースウェアとしては、まだまだ、試作の段階であり、全くの未完成である。児童の意見にもあったように、もっといろいろな地方の方言が聞けるようにしたい。また、あいさつのことばなどを方言マップにまとめたりすると、調べ学習の参考にもなると考えられるので、今後、さらに多くの音声素材を加えて、内容を充実させる必要がある。

私の学校ではインターネットが来年導入される予定であり、現在は環境が整っていない。そこで、今回、コースウェアを作成するにあたっては、自宅の回線を利用してインターネットに接続した。私と一緒になった16名の実習生の中学校のうち、10校でインターネットがすでに導入されているということだった。ところが、その中にインターネットを利用した授業実践をしたことのある先生はひとりもみえなかったことには驚いた。インターネットを利用できる環境があっても、実際授業に利用しないのではないに等しいのであって、残念なことだと思った。

最後に、このコースを使った授業を実践させていただいた知多市立新知小学校の校長先生、指導教官の山口政盛先生をはじめ、多くの先生方、そして、何よりも4年2組の児童のみなさんに深く感謝しなければならない。

コース作成にあたっては、信州大学教育学部附属教育実践研究指導センターの東原義訓先生の指導を受けた。先生とEメールを交換したり、FTPでコースウェアを送って見ていただいたりと、インターネットをフルに活用しながら指導・助言をしていただいた。本当にありがとうございました。

## < 参考資料 >

方言の音声素材を入手したホームページのURL  
冒頭の民話：十和田昔ばなし ねずみの小判の虫干し  
(語り 三浦はるみ)

<http://www.sphere.ad.jp/aomori/wnn/bunka/mukasi/towada.htm>

秋田の方言：西仙北町立双葉小学校

<http://obako.or.jp/futaba.htm>

会津若松の方言：会津若松市立城西小学校

<http://www.akina.ne.jp/~josai/dialect.html>

徳島の方言

<http://www.tokushima-jhs.tokushima.tokushima.jp/kotoba/kotoba.html>

九州地方 博多の方言

<http://cad7.nagaokaut.ac.jp/95/kanou/hakata/hakata107.htm>

日本全国の方言 ふるさとの方言

橋本直子先生は、以前、富貴島中学校でDOS版のコースウェアで、AETに音声吹き込んでもらった自主制作CDの音声を聞きながら学習をすすめる「ねえ、聞こえてる？」(中学校1年英語)を作成された時の中心メンバーのお一人でした。その時の経験も生かして、今回、本格的なwindows版マルチメディアコースウェアに挑戦されました。

## [ スタディノート・メーリングリスト ] から

### 国語での実践をめくって

Date: Fri, 9 Oct 1998 22:05:35

Subject: 最近の取り組み

堀 博文

兵庫県 柏原町立崇広(そうこう)小学校

運動会練習期間中はスタディノートを使った実践はできませんでした。

10月に入り、何かしようと思いを考えていました。一昨日、教育実習生の先生に授業を見せる機会がありました。コンピュータを使った授業を見てもらうことが課題だったので、スタディノートを使った対話の授業ができないかと考えていました。思いつきなのでしっかりとした授業実践ではありませんがおもしろいと思っています。

## < 実践報告 >

教科：国語

単元名：スタディノートで句会をしよう。

学年：小学6年

データベース名：俳句～運動会～

種類：投句・選句・添削句・意見・感想・質問

キーワード：綱引き・リレー・応援・組体

喜び・悲しみ・がんばり・楽しさ・苦しさ・満足・不満

学習の概要

1. 運動会の作文をもとに運動会の俳句を作る。
2. 作った俳句をスタディノートでうつ。  
(縦書きにしました。グラフィックス機能のスタンプではりました。)
3. 自分の俳句をデータベースに投句する。

(次ページへ続く)

4. みんなの俳句を読み、俳句の意味について感想や意見や質問を子情報として登録する。
5. みんなからの意見を聞き、句を添削する。また、友だちの句を添削して投句してもよい。
6. 一番いいと思う句を選び、情報の種類を選句として投票する。
7. 子情報の選句の数が一番多かった句が選ばれる。

このようにデータベース上で句会を開くことができます。

Date: Sat, 10 Oct 1998 17:49:26  
 Subject: Re: 最近の取り組み  
 余田@筑波女子大

俳句の授業実践、面白いですねえ。  
校種や学年を越えて色々な展開が考えられそうなネタです。中学校ぐらいになってきたら、季節と季節なんかをキーワードにして俳句の作品集を作っていくのもいいかもしれません。連歌も面白いかもしれません。

今回の実践報告の形式、簡潔でよくまとまっています。皆さんも、実践報告をされる時、参考にして下さい。

ところで、堀先生の学校は(私の出身地でもある)兵庫県氷上郡(丹波地方)にあります。正岡子規ゆかりの地として有名で、俳句が盛んです。子どもたちがコンピュータを使って俳句に親しんでいる様子を、俳句好きのお年寄りが目にされたら、さぞかし驚かれることでしょう。

新聞社に声をかけて取材をしてもらっては如何でしょう。

Date: Mon, 12 Oct 1998 00:39:26  
 Subject: 国語における実践  
 八王子市立柏木小学校  
 五十嵐俊子

今、私も国語でスタディノートを使っているところです。

(中略)

堀先生の国語の実践紹介、とても興味深く読ませていただきました。参考にさせていただきます。ありがとうございました。

今私が実践しているのは小学5年の国語です。

データベース名は「宮沢賢治ワールド」。キーワードは、児童各自が選んだ本の題名です。(ノートの題名は、児童各自が考えてつけましたのでデータベースにしたときに本の題名もわかるようにキーワードを題名にしてみました。)

教科書に宮沢賢治の作品が載っていましたので、その発展としての学習活動です。宮沢賢治の作品は、独特の表現があったり不思議なストーリーの中にも人と自然のかかわりのようなテーマが流れていたりします。そこで、教科書以外にも多くの作品に出会わせたいと考えました。

お互いに読んだ本を紹介するのですが、単なる作品紹介ではなく、みんなでいろいろな作品を読み味わってみようというのがねらいです。気に入った表現や感想、さらにみんなで考えたいことも親情報としてのせ感想、意見などを交換し合う計画です。現在、親情報を入力中です。読書の時間等を使って、

かなり長期にわたって、のんびり進める予定です。他のクラスや6年生とも意見交換できたらいいなあと思っていますところ。アドバイス等、よろしく願いいたします。

Date: Mon, 12 Oct 1998 09:04:18 +0900  
 Subject: RE: 国語における実践  
 長野県総合教育センター  
 成田顕宏

五十嵐先生、いつもすばらしいアイデアありがとうございます。

研究授業などでは1時間の中に見せ場を作らなければいけないので、こうした息の長い取り組みについては、なかなか情報がありません。しかし、情報活用能力の育成という点からは、小さな継続的な取り組みが非常に重要だと思います。

スタディノートが特別なものではなく、子どもにとって当たり前の環境になると、子どもの側からの発想が出てくると思います(これ、スタディノートでやってみよう・・・などの声)。

子どもたちの活動の様子など、ぜひ聞かせてください。楽しみにしています。

「スタディノート・メーリングリスト」は、東京家政学院筑波女子大学の余田先生がオペレーションされています。メーリングリストに参加を希望される方は、[yoden@cs.kasei.ac.jp](mailto:yoden@cs.kasei.ac.jp)へ、次の内容のメールをお送り下さい。

- ・Subjectに「メーリングリスト参加希望」と記入する
- ・本文には所属・連絡先(住所、電話番号)・名前(ふりがな)を記入する

### 掲載されました！

学習研究社『NEW 教育とコンピュータ』  
 12月号 P.87 ~ P.89

塩尻市立広陵中学校 小林智芳先生

「授業実践報告 異種・異文化との  
 相互交流を疑似体験」

ECO News No.54でもご紹介したスタディノートを活用した英語の授業実践報告です。

#### < 編集後記 >

11月27日桜南小学校で行われた研究発表会に私も参加させていただきました。そこで、久しぶりに1年生の算数のC A I授業を参観しました。一所懸命考えて答えを入力し、コンピュータに「よくできたね！」とほめられにっこりする児童の姿に、スタディに関わってきて本当によかったなあ一人感激してしまいました。

みなさま、どうぞよいお年をお迎え下さい。(MA)

ECO News  
 (21世紀教育研究所)



〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-3-10  
 Tel : 0298-50-3321 / Fax : 0298-50-3330  
 e-mail econews@green.ocn.ne.jp  
 URL <http://www.eri21-unet.ocn.ne.jp/>